

加藤順子委員からのコメント

・化学物質分野では依然として、有害性評価のための簡易手法、代替手法の開発は重要だと感じています。そのための研究の継続が必要だと思います。

・有害性評価についても暴露評価についても、場面に応じて利用可能なツールを整備することが重要だと思います。また、ライフサイクルを通じたリスクの管理が可能となるよう、製品に含まれる有害化学物質のトレーサビリティを高め、暴露評価・リスク管理が可能となるような方策およびツールを開発することが重要だと思います（すでに取り組みが開始されていますが）。

・これらのツールを企業が使いこなして製品開発を行うことによりリスク管理がすすみ、環境保全に役立つと同時に、我が国企業の国際競争力も高まるものと考えます。そのために、企業における化学物質のリスク管理意識と技術を高めるためのしかけも必要ではないかと思えます（総合科学技術会議の役割かどうかはよくわかりませんが）。

・全体として、環境分野における技術開発が、我が国や世界における環境保全に役立つのみではなく、我が国の国際競争力を高めることにもつながることを願っています。そのような視点での戦略も必要ではないかと思っています。